



鉄スクラップ相場

結論から言いますと今年はこのまま高値安定と思われれます。

今年に入り今までの鉄相場の流れを見ますと、例年の動きとは違ったほぼ一本調子の上げ相場となっています。(一時下がった時もありますが・・・)

これは主に、輸出先では、中国に変わり韓国が日本屑の購入を増やしている事、国内に目を向ければ、鉄屑の発生が一段落しており、思った程、出て来ない事、そして、高炉がスクラップの配合率を上げている等などが挙げられます。

これらは全て、世界の製品の需要増によるものが原因であると言うのは言うまでもありません。

特にアジア地区は、世界の粗鋼生産の6割以上を占め(特に日本・中国・韓国・台湾辺りが生産量の上位を占めています)これによりスクラップの使用量も当然ながら多くなっています。

この先、まだスクラップの使用が増えるいくつかの出来事があります。

一つは、東京製鐵が、愛知県田原市で高級鋼板(自動車向け?)の供給に参入する為、(東京製鐵では自動車向けとは言っていないそうですが、ほぼ間違いのないと思われれます)トヨタの隣に工場を建設しています。

ここでの年産能力が250万トンと言われていいますから、スクラップの使用量もそれなりの量を購入すると思われれます。

そして高炉でもスクラップの使用量を上げる為(CO2排出問題もあることから)シュレッダーを導入したりシャフト炉なるものを導入しスクラップの使用率を上げていく方向で動いています。

韓国では、電炉の設備導入や改修、新規の工場の設立などがあります。

まだまだその他の要因もありますが、これだけを見てもスクラップの使用量が増加するのが判るのではないのでしょうか?

これらの要因から、スクラップ価格は新ステージを迎えたと言えます、底値がさらに上に上りました。

この先、まだ上がるのかと言えば、あと少しではとしか私個人は考えていないのですが・・・。

ただ今しばらくは、世界的な鉄鋼需要増はこの先も見込まれ、この高原相場が続くものと思われれます。

さてちょっと話が変わり、ここまでスクラップが高騰すると、にわかに関目を付けた問屋以外の業者がヤードを構え何でも受け入れしてしまい、ある意味この業界が無駄地帯となる事が唯一懸念される所となっています。

と言うのは、私達が属する全国規模の社団法人リサイクル工業会と言うのがあり、そこでは、必要な情報などが交換・入手できますが、先に書いたヤードの方々は、これら団体に属さない為に、必要な情報が届かず、本来ならば受け入れ禁止品(家電4品目やその他)なども受け入れてしまうと言う状態になってしまっています。

当然フロン回収法なども知らない事が多く、大気放出もされかねません。

コンプライアンスが叫ばれている今、当社とお取引あるお客様・今後お取引につながるお客様においては、廃棄物処理法違反に引っかからない為にも、安易に何でも受け入れる業者においては注意して頂き、何かありましたら弊社までご相談くださるようお願いいたします。

ISO更新審査

先月8月30日に弊社にとって2回目となる更新審査がありました。

更新審査とは、3年に1回ある審査で、過去を含めて3年分のISOの取り組みを見ていくという意味重要な審査となっています。

この他に毎年、その年の取り組みを審査するサーベランスと言うものがあります。(毎年審査があるので)まだ正式発表はされていませんが、更新審査の時に審査された審査員によりますと問題箇所はありませんとのコメントを頂きました。

お客様からは、弊社のマニフェスト等の発行基準が厳しいと言う意見も頂きますが、環境に直結している商品を扱っている以上、いい加減な事はできないと言うのが弊社の考えとなっていますので、何卒ご理解くださいませ、よろしく御願い申し上げます。

一方で、弊社としましては、他社に無いサービスを心がけて弊社社員にも指導しています。

それは、当たり前挨拶から、ロープほどきのお手伝いや、床面の掃除等気持ち良くお客様に帰って頂けるように取り組んでいます。

今後とも末永くご愛顧頂きます様、宜しく御願い致します。